

次世代学術コンテンツ基盤共同構築事業
中間まとめ

平成 19 年 3 月

国立情報学研究所

目 次

概要	-----	1
1. 平成 18 年度事業の概要		
1-1. 事業の目的	-----	2
1-2. 事業の概要	-----	4
2. 領域 1：機関リポジトリの構築・運用事業		
2-1. システムの導入状況	-----	5
2-2. コンテンツの蓄積状況	-----	6
2-3. 機関リポジトリの運用体制	-----	9
2-4. 優良実践例	-----	10
3. 領域 2：先駆的な研究開発事業		
3-1. 概況	-----	13
3-2. 優良実践例	-----	14
4. 平成 19 年度以降の展望	-----	17
附録：資料編		

概 要

次世代学術コンテンツ基盤共同構築事業は、これまでのコンテンツ関連事業の成果を継承，拡充させ，次世代学術コンテンツ基盤の整備に資するために，各大学における機関リポジトリの構築とその連携を支援するために，行われているものである。

事業期間は平成18年7月1日から平成19年3月31日までの2ヵ年であるが，平成18年度は，領域1「機関リポジトリの構築」では57大学，領域2「機関リポジトリ運用に関する先端的研究開発」では22プロジェクトに事業を委託した。

領域1においては，中間まとめ時点(平成19年3月6日現在)で試験運用のものを含めて36の機関リポジトリが運用されている。とりわけ次の8つの実践例については高い成果が上がっており，機関リポジトリ構築・運用の参考になると考えられる。「多様な広報活動，利用者フィードバック」(北海道大学)，「多様なコンテンツ，国際連携」(千葉大学)，「全学的コンテンツ提供，システム自力構築情報提供」(お茶の水女子大学)，「総合的学術情報システム，認証実装，オープンソース提供」(信州大学)，「広報活動」(三重大学)，「コンテンツ収集，E-repositoryユーザ会」(広島大学)，「特色あるコンテンツ」(早稲田大学)，「地域リポジトリ」(広島大学，長崎大学，山形大学，名古屋大学，岡山大学)。

領域2においては，とりわけ次の6つのプロジェクトがすでに，高い成果波及効果を発揮している。「リンクリゾルバを通じた機関資源へのアクセス」(北海道大学，筑波大学，千葉大学，名古屋大学，九州大学)，「XooNIps Library モジュールの開発」(慶應義塾大学)，「国内学協会等の著作権ポリシー共有・公開」(筑波大学)，「機関内学術情報資源の統合検索」(九州大学)，「機関リポジトリの評価システム」(千葉大学，三重大学)，「機関リポジトリコミュニティの活性化」(北海道大学，千葉大学，金沢大学)。

1. 平成 18 年度事業の概要

1-1. 事業の目的

国立情報学研究所はわが国唯一の情報学の学術総合研究所として、大学等の共同利用研究活動の拠点として位置づけられ、学術情報流通の先端的基盤提供および大学院教育・IT人材育成をミッションとして、研究と事業の両輪運用を展開している。その活動は、最先端学術情報基盤（サイバー・サイエンス・インフラストラクチャ:CSI），すなわち「コンピュータ等の設備，基盤的ソフトウェア，コンテンツ及びデータベース，人材，研究グループそのものを超高速ネットワークの上で共有する」ための基盤構築に総括される。我が国の学術研究・教育活動を促進し，その国際競争力を維持するためには，こうした最先端の学術情報基盤を早急に実現することが求められている。（科学技術・学術審議会学術分科会 研究環境基盤部会 学術情報基盤作業部会『学術情報基盤の今後の在り方について（報告）』（平成 18 年 3 月 23 日））

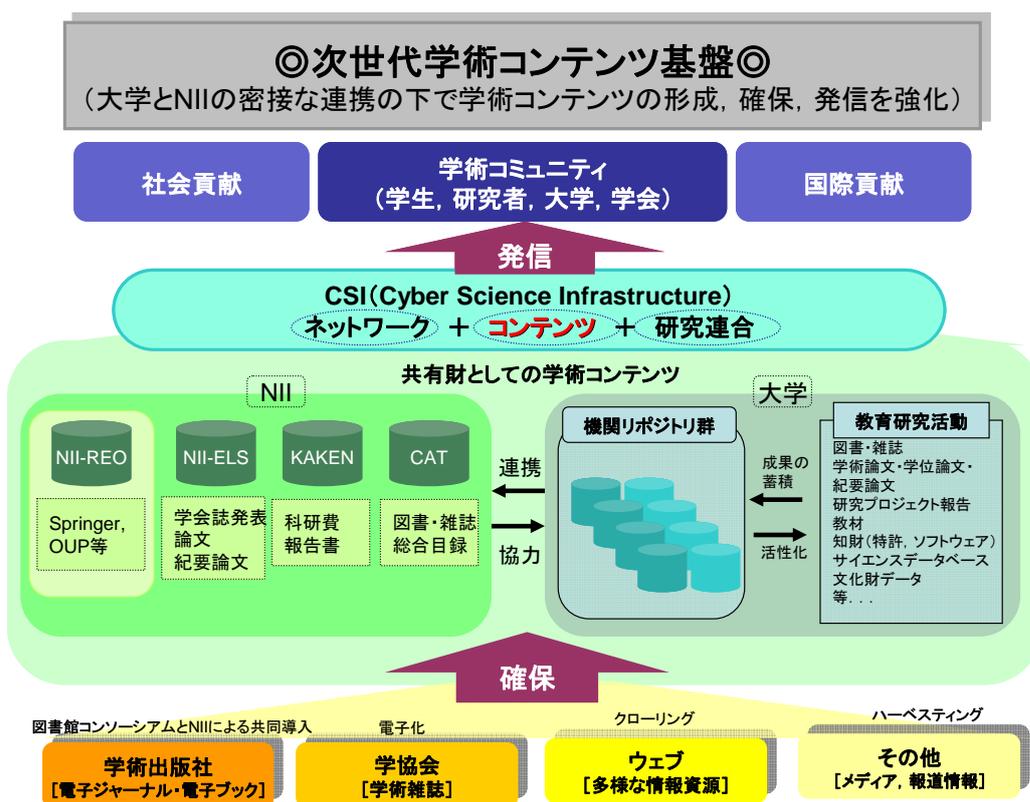


こうした学術研究・教育活動に不可欠な情報ライフラインとしての情報基盤を整備するために，国立情報学研究所では，次のような4つの取り組みを進めている。

- (1) 次世代ネットワーク（SINET3）の構築及び国際協力（アジア，ヨーロッパ，アメリカ），全国的な認証システムの整備，グリッド環境の整備。
- (2) 次世代学術コンテンツ基盤整備。
- (3) 情報学分野の研究連合。
- (4) E-サイエンスプロトタイプ育成支援。

また，基盤構築を円滑に推進するための組織面での整備も進めており，大学との密接な連携協力の下，学術情報ネットワーク運営・連携本部と学術コンテンツ運営・連携本部という 2 つの本部を設置して，大学と国立情報学研究所が一体となって CSI の構築を進める体制を整えつつある。

コンテンツ基盤整備では，これまでのコンテンツ関連事業の成果を継承，拡充させ，次世代学術コンテンツ基盤の整備に資するために，新たな学術情報発信基盤として世界中で整備が進んでいる機関リポジトリを不可欠な要素と位置づけ，機関リポジトリの構築と各大学間における連携を支援している。



大学以外の国内学術機関においても，独立行政法人日本貿易振興機構アジア経済研究所で「日本貿易振興機構アジア経済研究所学術研究リポジトリ」が運用されているほか，大学共同利用機関法人人間文化研究機構における人文研究

資源共有化推進事業においても、機関リポジトリを意識しながら、研究支援機能を実現するシステムの開発が進められている。

1-2. 事業の概要

次世代学術コンテンツ基盤共同構築事業は、平成16年度の機関リポジトリプロジェクト（IRP）に端を発し、そこでの成果を踏まえ、平成17年度は委託事業の形で19大学に事業を委託し、機関リポジトリの構築を行うと同時に、システム構築・運用に関する経験を蓄積した。さらに、今年度は事業を拡大し、日本国内の国公立大学から公募により参画機関を募集した。

今年度の事業では、支援の対象として、2つの領域を設定した。すなわち、機関リポジトリの立ち上げ、構築を支援する領域1と、それを発展させ、さらに1つ上のステージに国内の機関リポジトリを押し上げるための具体的な成果を得ることを目的とする領域2の2つである。

（1）領域1：機関リポジトリの構築・運用事業

領域1は、大学からの情報発信力を強化し、大学における教育・研究活動の可視性を高めることによって、大学の社会的説明責任を果たすことを目的として、大学の独自性を生かした機関リポジトリの構築・運用を推進する事業である。既存の機関リポジトリに蓄積されたコンテンツの拡充を目指す取り組みも、この領域に含む。

領域1については、77大学から応募があり、57大学（国立47大学、私立10大学、採択率74%）を選定し、事業を委託した。

（2）領域2：先駆的な研究開発事業

領域2は、機関リポジトリ構築・運用に係る技術的あるいは制度的諸問題に実証的に取り組み、問題解決のため具体的な成果を得ることを目的とした事業である。

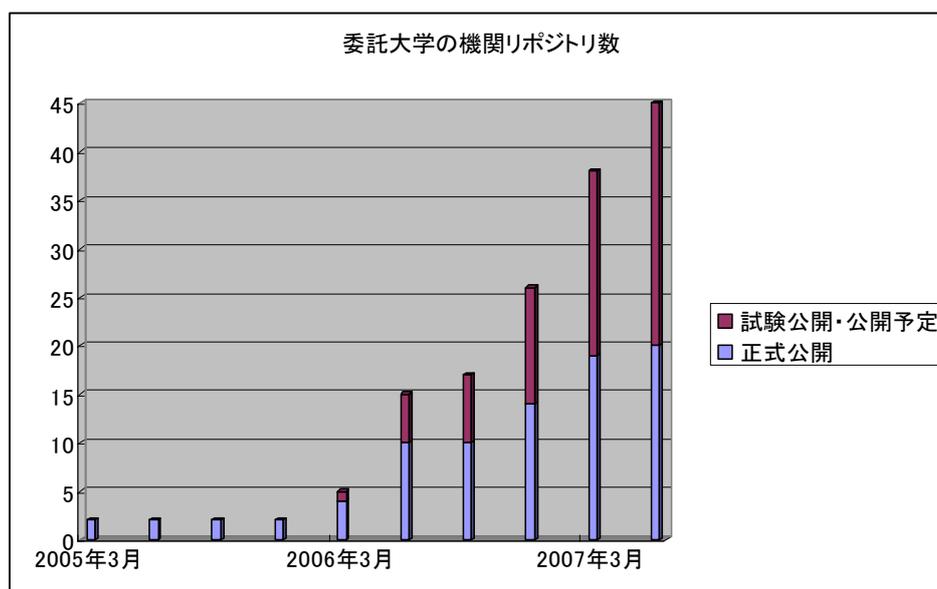
取り組むべき課題の例としては、構築技術（汎用性の高いソフトウェアパッケージ開発やコンテンツのバージョン管理方法の標準化や開発等）、発信強化のための技術（付加価値ポータルサービスの開発、リンク・リゾルバと機関リポジトリの連携等）、制度的課題（著作権処理、利用許諾契約等）、機関リポジトリの評価基準作成、学内連携（業績・評価システムとの連携、広報・啓蒙活動の実践、教育・研究活動との連携等）、学外連携（国際連携、分野別リポジトリとの連携、地域リポジトリとの連携、他の機関リポジトリとの連携、コンソーシアムによる共同運用型リポジトリ構築等）などがある。

領域1と同様、公募によって、30大学からプロジェクトの提案があり、その中から選定された22プロジェクト（共同プロジェクトを含め、延べ37大学）に事業を委託した。

2. 領域1：機関リポジトリの構築・運用事業

2-1. システムの導入状況

国内の機関リポジトリ数は、平成19年3月14日現在で、38(試験運用のものを含む)にのぼる。このうち、委託機関によるものは、36件である。平成18年度中にはさらに5リポジトリが増加予定であり、平成19年度末には60余りとなる見込みである。



機関リポジトリの立ち上げにあたり、どのシステム（ソフトウェア）を選択するかは、重要な要素のひとつであるが、現在の状況は、次のとおりである。

	ソフト、製品名	使用大学数	主な大学
1	DSpace	34	北海道大学, 東京大学, 名古屋大学, 京都大学, 九州大学等
2	NALIS-R	8	東京学芸大学, 東京外国語大学, 鹿児島大学, 琉球大学等
3	eRepository	3	大阪大学, 広島大学, 島根大学
4	XooNips	3	旭川医科大学, 埼玉大学, 慶應義塾大学

5	Infolib-DBR	2	神戸大学, 山口大学
6	iLisSurf e-Lib	2	関東学院大学, 同志社大学
7	独自	2	千葉大学, 東京工業大学
8	Digital Commons	1	岡山大学
9	ePrints	1	岡山大学
10	GlobalBase	1	東洋大学
11	未定	1	福島大学
	合計	58	(岡山大学が2つ運用しているため合計は58になる)

2-2. コンテンツの蓄積状況

前年度からの累積コンテンツ数は平成19年2月20日現在で281,055であり、うち平成18年度に作成されたコンテンツ数は212,880である。

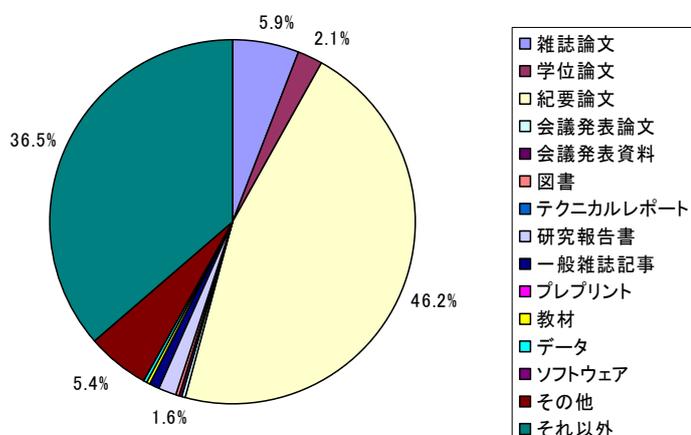
コンテンツ数

	～17年度	18年度	19年度
増加	68,175	212,880	246,943
累積		281,055	527,998

3月5日現在、機関リポジトリからアクセス可能なコンテンツ（メタデータのみアイテムも含む）は163,613件である。

平成18年度作成・平成19年度作成予定のコンテンツの種別による内訳は以下の表・図のようになっている。多くの大学にとって機関リポジトリ運用初年度となる平成18年度に紀要が大量に搭載されているのは、国立情報学研究所が機関リポジトリ構築支援の一環としてCiNiiに搭載されている紀要の電子化データを申請に基づき各大学に配布しているためである。

平成18年度コンテンツ内訳

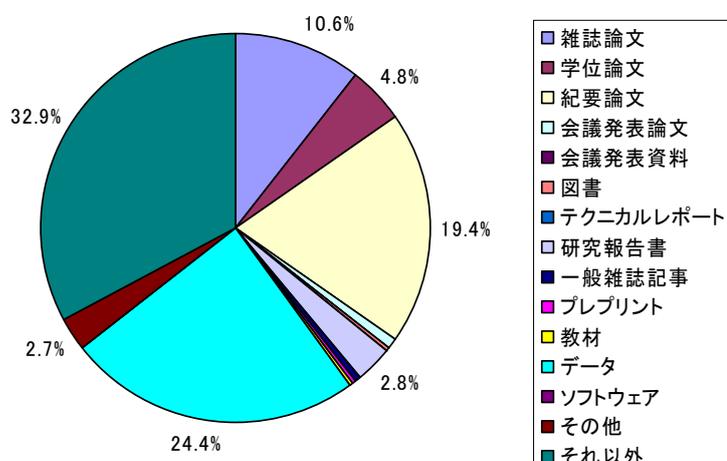


「それ以外」に分類されているのは主として特殊コレクションであり、貴重書 31,667 件（名古屋大学等）、舞踊教育学の創作舞踊静止画コンテンツ（お茶の水女子大学, 6,000 件）などが代表的なものである。また、「その他」となっているのは、貴重書を含む図書資料のマイクロ化と電子化（山口大学, 7,091 件）などである。

作成コンテンツ数

	H18	H19
雑誌論文	12,592	26,183
学位論文	4,469	11,752
紀要論文	98,356	47,904
会議発表論文	761	1,647
会議発表資料	240	494
図書	673	340
テクニカルレポート	251	387
研究報告書	3,355	7,037
一般雑誌記事	1,546	1,333
プレプリント	274	1,065
教材	476	710
データ	766	60,347
ソフトウェア	0	5
その他	11,449	6,553
それ以外	77,672	81,186
合計	212,880	246,943

平成19年度コンテンツ増加予定内訳



また、平成19年度には、千葉大学で60,000件のサイエンス・データの搭載が予定されているなど、論文だけではなくサイエンス・データがリポジトリに本格的に搭載されるようになる見込みである。

学術誌論文のほか、科学研究費補助金報告書などの研究報告書の搭載も進む予定である。学位論文については、平成18年度には学位論文要旨15,566件が「それ以外」にカウントされているが、将来学位論文本文がリポジトリに搭載されるに伴って、今後アイテム数からは削除されるものと思われる。

平成17年度から業務委託している大学と平成18年度から委託開始した大学とで分けると、コンテンツ増加は以下のようなになる。

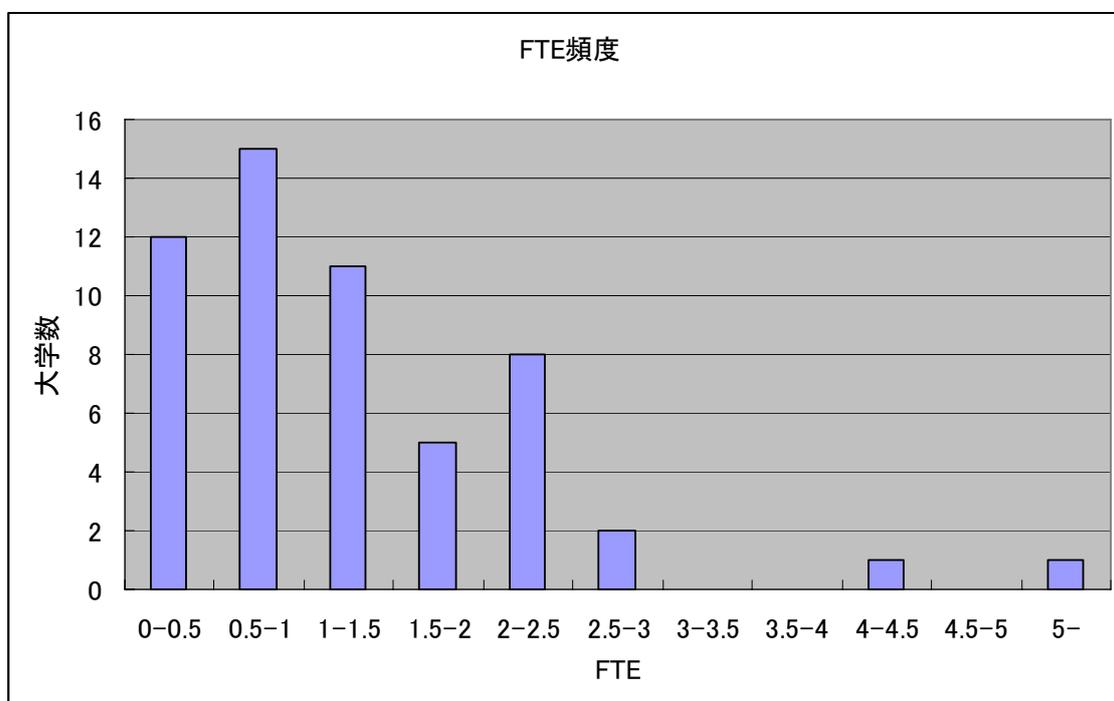
委託開始時期		コンテンツ増加平均数		
分類	機関リポジトリ数	18年度	19年度	2年間
17年度委託	19	11,072	12,438	23,510
18年度委託	38	2,110	2,403	4,513
合計	57	5,097	5,748	10,845

平成17年度以前から委託を受けてリポジトリ運用が先行している大学では、コンテンツ収集ノウハウが蓄積されると同時に、コンテンツの種別としてもサイエンス・データなど、アイテム数そのものが大きなものを導入する大学があ

るため、平均値が大きなものとなった。一方、平成 18 年度にリポジトリを導入・運用開始することとなった大学では、システム立ち上げ・体制確立に労力を要するとともに、広報活動も並行して行わなければならないため、このような結果となっている。評価にあたっては、このことに留意する必要がある。

2-3. 機関リポジトリの運用体制

平成 18 年度では、機関リポジトリ運用に携わる正規職員FTE¹平均は 1.2 人であり、半数以上の大学が 1 人以下で運用している実態が明らかになった。



米国研究図書館協会（ARL）が 2006 年 1 月に加盟館に対して行った機関リポジトリに関する調査（87 館回答，機関リポジトリ運用中 37 館，2006 年内運用予定 31 館²），典型的な機関リポジトリでは，3,800 のデジタルコンテンツを所

¹ FTE=full time equivalentの略。専従換算(FTE換算)値。報告書に記載されたのは、当該業務に従事している実働時間のフルタイム換算値を担当者別に計算し、各機関の担当者のFTEを合計した数値である。たとえば、勤務時間の30%を運用業務に費やし、残りを他の活動に費やしている者は、0.3FTEであるとする。

² University of Houston Libraries.etc. Institutional repositories. Association of Research Libraries, 2006, 174p, (SPEC kit, 292). (ISBN 1594077088)

蔵し、28人のフルタイムスタッフがかかわり、導入時の費用は18万2,500ドル（約2,110万円）、運用予算は11万3,500ドル（約1,310万円）となっている。

一方、Rankin (2005) (http://wiki.tertiary.govt.nz/tertiary/wikifarm/InstitutionalRepositories/uploads/Main/IR_report.pdf, p. 30) では、リポジトリは初年度には構築と運用 1-3FTE の、それ以降の運用にはおそらく 1FTE がかかると計算している。これらの調査結果・報告書と今回の中間報告とはタイムラグがあること、また欧米と日本では図書館員の職責や労働形態に大きな相違があるため、直接の比較は難しいことを念頭に置く必要があるが、総じて日本国内の機関リポジトリは効率的に運用されているとみなせる。

2-4. 優良実践例

(1) 北海道大学

学術雑誌を中心とした機関リポジトリでは国内で代表的な存在であり、合計収録件数は平成18年11月に1万件に到達し、19年3月末現在約12,770件となっている。月平均約4万回のダウンロードのうち、個別の状況は文献を提供した教員へ毎月1回電子メールにより通知している。広報活動にも特色があり、研究室訪問20回のほか、電子メールによる個別協力依頼1000回程度、学内のサイエンスコミュニケーション専門組織との連携による広報誌の刊行、ポスターの掲示など多様である。

(2) 千葉大学

国内機関リポジトリの草分けとなる CURATOR を運用する千葉大学では、博士論文・紀要といった論文コンテンツの継続的収集の確立のほか、サイエンス・データの拡充に取り組んでいる。

- ・ 真菌・放線菌ギャラリー（データベース）から、真菌画像を登録・公開
- ・ 卒業生のデザイン作品を画像化し許諾処理を行ったうえで、登録・公開
- ・ 衛星画像データの発信性・利便性を高めるため、OAI-PMH 対応等に関して学内の研究センターと協力

また、国際的・国内的可視性の向上を目指し、千葉大学研究者情報公開システムとの連携を実現するとともに、エルゼビア社の無料学術情報検索エンジン Scirus とパートナーシップを締結した。

(3) お茶の水女子大学

図書館の広報活動のほか、全学的な取り組みが功を奏した。教授会で学長報告（テレビ会議）の中で、学長から全教員に対して、本事業の趣旨と全学的取り組みについて報告があり、またほぼ毎回の教育研究評議会で、学術・情報機構長（副学長兼図書館長，総合学術情報基盤プロジェクト長）から進捗状況の報告及び学内協力の依頼を行なった。さらに 9/29, 11/10 に学内研修会として「教育・研究成果の電子公開と著作権に関する研修会」を実施した。その結果、学長以下ほぼ教員全員（230名）からコンテンツが提供された。

また、DSpace を自力構築し、作業日誌をブログとして公開している。

http://d.hatena.ne.jp/ocha_repo/

(4) 信州大学

信州大学では学内の最新の学術情報環境を整備すると共に、研究者の研究成果・研究教育諸活動を広く国内外に発信するシステムとして、機関リポジトリの構築のみに止まらず、これを機に総合的な学術情報システムである「信州大学学術情報オンラインシステム：Shinshu University Online System of General Academic Resources (SOAR)」を構想した。研究者総覧システム，機関リポジトリ，それに，Google, Yahooなどの一般の検索エンジンや電子ジャーナルとWeb of Scienceなどの情報の間を繋ぎ目無く行き来できるように設計されている。機関リポジトリはDSpaceを用いて構築するが，研究者総覧システムについては新システムを開発した。また，総合情報処理センターと連携し，LDAPユーザ認証による機関リポジトリの運用を可能とした。

次の開発システムのコア部分となるソフトウェアを無償提供している。

- ・ 研究者総覧検索システム一式
- ・ ネイティブ XML データベースエンジン：本システム向けEsTerra XML Storage Server Express 一式
- ・ DSpace 用 DB 連携機能付加ソフト一式

(5) 三重大学

三重大学では情報リテラシー教育支援活動を通じ教員との信頼関係を構築してきたという土壌を活かし、学長，情報・国際交流担当理事（附属図書館長）の理解の下で，全学部・共同利用施設等教授会で説明会を開催した。説明会后，教員から論文提供の申し出があり，紀要以外の提供論文数は2ヶ月で1,000件近くに上っている。また，生物資源学部からはAgropediaで本文公開済みの紀要について，著作権の包括許諾を得た。さらに関連他部署との連携を深め，学

内の知的生産物を研究者の自然な行動パターンの中で収集できるよう工夫している。

(6) 広島大学

学術誌論文・学位論文・紀要論文・科学研究費報告書など、コンテンツ種別に収集戦略を立て、許諾調査・提供依頼を中心に作業を行った。また、大阪大学・千葉大学・島根大学との間で、リポジトリソフトウェア(シーエムエス社製 E-repository)のユーザ会を設立した。

(7) 早稲田大学

学内研究者執筆論文(特に紀要は初号から)等の調査及び知的財産権の処理を行い、特徴ある教材としてアイヌ語資料(音声およびテキスト)、また大学創設者である大隈重信に関する資料約3,000件などを登録した。

(8) 地域リポジトリ

広島大学・長崎大学では県内大学との共同リポジトリ構築に向け、共同研修会を催すなどの取り組みを立ち上げており、山形大学(山形県内)・名古屋大学(東海地区全体)でも準備が進んでいる。また岡山大学は、「デジタル岡山大百科」を運用している岡山県立図書館と協力して、地域・国内向けリポジトリ(ePrints@OUDIR)の立ち上げ、「デジタル岡山大百科」からのハーベストを平成19年4月1日からスタートする予定である。

3. 領域2：先駆的な研究開発事業

3-1. 概況

平成18年度は機関リポジトリにかかる研究開発業務を22プロジェクト（延べ37大学）に委託した。

テーマ	主担当	分担大学
機関リポジトリコミュニティの活性化	北海道大学	千葉大学・金沢大学
リンク・リゾルバを通じた機関資源へのアクセス	北海道大学	筑波大学・名古屋大学・九州大学
業績DB・IR連携プロジェクト	金沢大学	早稲田大学・九州大学
国内学協会等の著作権ポリシー共有・公開プロジェクト	筑波大学	神戸大学・千葉大学
わが国における学術情報基盤の振興のための国際的協力の調整	千葉大学	なし
T2R2システムの開発	東京工業大学	なし
登録負荷軽減のための連携型機関リポジトリシステムの開発	大阪大学	なし
機関内学術情報資源の統合検索	九州大学	なし
多様なメタデータの[相互]交換	名古屋大学	なし
機関リポジトリの評価システム	千葉大学	三重大学
機関リポジトリを中心とした学習・教育，研究環境向上のための統合的情報検索システムの開発	三重大学	なし
研究者－情報の共進化型コミュニティ創出支援	千葉大学	九州大学
電子出版システム（編集査読システム）の開発	早稲田大学	広島大学・長崎大学
システム間連結のための著者名(典拠)ディレクトリ開発	名古屋大学	なし
「OneWriting & MultiOutput システム」の開発	お茶の水女子大学	なし
XooNips Library モジュールの開発	慶應義塾大学	なし
リポジトリ登録・管理システムの開発	東京大学	なし
平和学リポジトリの構築	広島大学	なし
主題ナビゲーション	北海道大学	なし
教育系サブジェクトリポジトリとしての展開	東京学芸大学	なし
教育成果に重点をおいたコンテンツ作成	東北大学	なし
数学文献アーカイブの構築と公開	京都大学	東京大学・北海道大学

3-2. 優良実践例

(1) プロジェクト名：リンク・リゾルバを通じた機関資源へのアクセス (AIRway)

担当大学： 北海道大学・筑波大学・千葉大学・名古屋大学・九州大学

リンク・リゾルバを通じて機関リポジトリ内の雑誌論文へナビゲートする仕組み (AIRway) を開発するとともに、*D-Lib Magazine* への論文掲載等による国内外への報知、ベンダーへの情報提供などを積極的に展開した。これにより、機関リポジトリに掲載された論文の可視性の向上が見込まれる。オープン・アクセス運動を推進する重要な機能を付与するものとして評価できる。

(2) プロジェクト名：XooNIPS Library モジュールの開発

担当大学： 慶應義塾大学

本来はNeuroinformaticsの研究者向けとして開発されてきたコンテンツ管理システムであるXooNIPSに、機関リポジトリの運営に必要な機能 (モジュール) を付加し、公開した。具体的な点を上げると、論文資料型の追加、機関リポジトリとしての運用にマッチしたweb ページ構成、一括登録支援モジュールなどが挙げられる。

既に、慶應義塾大学だけでなく、埼玉大学、旭川医科大学、農林水産研究情報センターにも導入された。コンテンツ管理システムであるXOOPSのモジュールとして実装されており、インストールの極めて容易である点が寄与していると思われる。他機関での導入支援、他システムとの連携に注意しつつ開発されている。

独自ハンドルサーバの構築、ファイル自体の正当性認証といった問題意識は非常に重要な視点であると考えられる。コンテンツ系とネットワーク系との分野横断的な活動を国立情報学研究所の支援の下に展開できるならば、機関リポジトリを推進するに当たっても大きな成果を得られるだろう。

(3) 国内学協会等の著作権ポリシー共有・公開プロジェクト

担当大学： 筑波大学、神戸大学、千葉大学

機関リポジトリの関係者の確認作業を容易にするために、著作権ポリシー調査に基づいてDBの構築と公開を行っており、地道な作業ではあるが実務上有益である。学協会出版物に関わる著作権の状況を明らかにしただけではなく、計画に沿って、学協会に対して著作物公開の働きかけを行うなど、広報活動にも力を入れている。

今後は、著作権等の分野別動向調査、分野毎の最適な著作権処理などの提案

へ結びつけるとともに、各大学における個別の調査のための共通フォーマットを提供し、その結果を反映するなどの方式を加えることで、より一層の充実が期待できる。

(4) 機関内学術情報資源の統合検索

担当大学：九州大学

大学内に点在するさまざまな種類の学術情報を、制約の少ないテキスト検索技術を用いてゆるやかに結合し、統合的な利用を可能にするシステムの提示を目指すプロジェクトである。教育用資料やデータまでを含めた巨大な学術資源データベースとしての機関リポジトリの運用において特に重要な機能であり、今後の展開が期待される。

(5) 機関リポジトリの評価システム

担当大学：千葉大学・三重大学

各大学で構築が進められている機関リポジトリを相互評価するための枠組みを検討し、各図書館が自己評価できるような指標を策定した。この指標の策定においては、1) リポジトリ構築／運用に係る整備状況、2) コンテンツ収集／利用の促進に関する活動、3) インプット、4) アウトプットといった観点から、リポジトリ構築、利用にかかる諸活動を総合的に評価するものとなるように配慮している。1) から3) に係る評価項目については、今年度のCSI事業（領域1）の評価のための指標としてすでに使われている。

アクセスログ解析による情報資源の利用調査は、結果および方法とも他機関にも資するものであり、今後平成19年度成果を踏まえて、国際比較に繋がることが期待される。

(6) 機関リポジトリコミュニティの活性化

担当大学：北海道大学・千葉大学・金沢大学

機関リポジトリ構築をすすめる大学が相互に情報を交換・共有し、各大学でのリポジトリの設置・運営に貢献しあうとともに、プロジェクト型のコンソーシアム活動を通じて、リポジトリの継続のための相互協力活動やゆるやかな連携組織のあり方を模索することを目指す。初年時の活動は以下の通りである。

1. ワークショップの実施

第1回 平成18年11月17日「機関リポジトリの構築に向けて」（千葉大学）

第2回 平成19年2月8～9日「機関リポジトリをデザインする」（早稲田大学）

両ワークショップではポスターセッション、グループ討議等において、CSI受託機関の機関リポジトリ構築の進捗が報告され、またとくに第2回ワークショ

ップにはCSI受託大学以外の39機関から参加（※CSI受託大学からの参加は37機関）があるなど、国内における機関リポジトリに関する関心の喚起、理念普及、コミュニティ形成促進において成果が得られた。

2. ウェブサイトの開設

誰でも自由に書き込みができる Wiki (<http://drf.lib.hokudai.ac.jp/>) を用いたウェブサイトを立ち上げ、機関リポジトリのコンテンツ構築に関する情報、著作権に関する情報、ソフトウェア情報などを蓄積している。Wiki サイトのトップページは9千件以上のアクセスが記録されている。

3. メーリングリスト (drf@lib.hokudai.ac.jp) の開設

オープン・アクセス思潮、機関リポジトリの広報、コンテンツ収集、権利処理、事業化、システム構築、国内外の動向・ニュースなど、機関リポジトリの構築に関するあらゆる話題について、自由に情報交換・意見交換を行っている。4ヶ月で800件余りの投稿があった。

標準的なシステムの未成熟な機関リポジトリ運営においては、それ自体が研究活動であるといっても過言ではない。その意味でコミュニティ形成は事業および研究活動として極めて重要である。

4. 平成 19 年度以降の展望

平成 20 年度以降も機関リポジトリが継続的に運用され、学術情報流通基盤を頑強なものとするために、平成 19 年度事業を通して機関リポジトリのネットワークを確固としなければならない。

日本国内では、平成 19 年度には既参画機関のすべて、およびそれ以外の学術機関でも、機関リポジトリの導入・構築が見込まれる。それに伴い、コンテンツの増加が見込まれる。既参画 57 大学における平成 19 年度末のコンテンツ数は 527,998 アイテムが見込まれている。さらに、コンテンツの種別も今後変化が予想される。平成 18 年度には紀要論文を初期データとして導入する大学が多く、国立情報学研究所でも CiNii 搭載データの提供を行ってきたが、平成 19 年度には学術情報流通におけるオープン・アクセスの実現に繋がる学術論文の導入に積極的である大学が多い。

平成 19 年度以降は、文部科学省による統合サイエンスデータベースプロジェクトと並行して、サイエンス・データの搭載も本格的に開始される見込みである。また、学位論文・研究報告書といった、学術的価値が高いにもかかわらずこれまで一般に流通経路を持たなかった文献についても、機関リポジトリ搭載が進む予定である。

だが円滑な学術活動に本質的に寄与するためには、さらなる多種多量の学術コンテンツ収集に向けててこ入れが必要である。これまでも学術情報流通の危機の可能性が指摘されてきたが、すでに海外では現実のものとなった。ノルウェーでは大学と商業出版社との交渉決裂に伴い、2007 年 1 月からブラックウェル社出版の 778 学術誌にオンラインでアクセスすることができなくなり、代替手段として紙ベースの学術情報を無料 ILL で流通させることとなったが、利便性は減少し、図書館の業務負担は増大した (http://nyheter.uib.no/?modus=vis_engelsk&id=35023)。

このような学術活動の効率性を損ねる事態に対するリスク対策として、日本国内においても、また国際的にも、機関リポジトリによる学術情報流通経路を緊急かつ安定的に確保する必要がある。そのためには、各学術機関における機関リポジトリシステムの導入・運用だけでなく、学術コンテンツ確保が喫緊の課題であり、また学内体制の確立及び長期にわたる学内予算の確保が必須である。このような各大学の取り組みに対し、国立情報学研究所は NII-ELS 搭載コンテンツの供与等を通じて支援を行い、学術コンテンツ基盤を大学と共同して構築していく。

附録：資料編

1. 領域1：機関リポジトリと作成コンテンツの概要
2. 領域2：各プロジェクトについて
3. 公募概要

1. 領域 1

1-1. 委託機関による機関リポジトリ概要

No.	大学名	機関リポジトリ名称	URL	使用ソフト	公開日*
1	北海道大学	Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers (北海道大学学術成果コレクション) 通称 HUSCAP	http://eprints.lib.hokudai.ac.jp/	DSpace1.3.2	H18. 4. 1
2	帯広畜産大学	帯広畜産大学学術情報リポジトリ	http://ir.obihiro.ac.jp/	DSpace	H19. 2. 19
3	旭川医科大学	旭川医科大学学術成果リポジトリ AMCoR	http://amcor.asahikawa-med.ac.jp	XooNIps	H19. 3. 6
4	北見工業大学	北見工業大学学術機関リポジトリ (仮称)	未定	DSpace1.3.2	H19. 6
5	弘前大学	弘前大学学術情報リポジトリ Hirosaki University Repository for Academic Resources	http://repository.ul.hirosaki-u.ac.jp:8080/dspace/index.jsp	DSpace1.3.2	H19. 3. 14
6	東北大学	TOUR(Tohoku University Repository) 東北大学機関リポジトリ	http://ir.library.tohoku.ac.jp/	DSpace	H19. 3. 5
7	山形大学	学術成果発信システムやまがた	未定	NALIS-R	H19. 3. 31
8	福島大学	福島大学学術機関リポジトリ (仮称)	未定		H20. 2
9	筑波大学	つくばリポジトリ (Tulips-R)	http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/tr	DSpace1.3.2	H18. 3. 23
10	群馬大学	群馬大学学術情報リポジトリ	https://gair.mc.gunma-u.ac.jp/	DSpace	H19. 3. 1
11	埼玉大学	埼玉大学学術情報発信システム SUCRA : Saitama University Cyber Repository of Academic Resources	http://sucra.saitama-u.ac.jp/	XooNIps	H19. 3. 20
12	千葉大学	千葉大学学術成果リポジトリ(CURATOR)	http://mitizane.ll.chiba-u.jp/curator/	独自	H17. 2. 28

No.	大学名	機関リポジトリ名称	URL	使用ソフト	公開日*
13	東京大学	東京大学学術機関リポジトリ (UT Repository)	http://repository.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/	DSpace	H18. 4. 1
14	東京外国語大学	東京外国語大学学術成果リポジトリ (仮称)	未定	NALIS-R	H19. 6
15	東京学芸大学	東京学芸大学リポジトリ	http://ir.u-gakugei.ac.jp/	NALIS-R	H18. 4. 1
16	東京工業大学	Tokyo Tech STAR	http://www.ocw.titech.ac.jp/	独自	
17	お茶の水女子大学	TeaPot お茶の水女子大学教育・研究成果コレクション Ochanomizu University Web Library - Institutional Repository	http://teapot.lib.ocha.ac.jp/ocha/	DSpace	H19 中
18	一橋大学	HERMES-IR		DSpace	H19. 6
19	横浜国立大学	横浜国立大学学術情報リポジトリ	http://kamome.lib.ynu.ac.jp/	DSpace	H19. 2. 28
20	新潟大学	新潟大学学術リポジトリ (Niigata University Academic Repository)	http://repository.lib.niigata-u.ac.jp	DSpace1.4.1	H19. 5. 7
21	金沢大学	金沢大学学術情報リポジトリ KURA	http://dspace.lib.kanazawa-u.ac.jp/dspace/	DSpace1.3.2	H19. 3. 20
22	信州大学	信州大学機関リポジトリ SOAR-IR	soar-ir.shinshu-u.ac.jp	DSpace	H19. 1. 22
23	岐阜大学	岐阜大学リポジトリ (仮称)	http://repository.lib.gifu-u.ac.jp/	NALIS-R	H19. 3. 1
24	名古屋大学	名古屋大学学術機関リポジトリ	http://akf.nul.nagoya-u.ac.jp/ http://ir.nul.nagoya-u.ac.jp/dspace/	DSpace	H18. 2. 28
25	三重大学	三重大学 学術機関リポジトリ 研究教育成果コレクション (MIUSE)	http://miuse.mie-u.ac.jp/	DSpace1.4.1	H19. 3. 22
26	滋賀医科大学	滋賀医科大学機関リポジトリ	未定	DSpace	H19. 4. 1
27	京都大学	京都大学学術情報リポジトリ	http://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/	DSpace1.4.1	H18. 6. 7

No.	大学名	機関リポジトリ名称	URL	使用ソフト	公開日*
28	京都工芸繊維大学	K I T学術成果コレクション (仮称)	http://repository.lib.kit.ac.jp/dspace/index.jsp	DSpace	H19. 2. 20
29	大阪大学	和文：大阪大学学術情報庫 Osaka University Knowledge Archive 略称 (愛称)：OUKA (桜華)	http://ir.library.osaka-u.ac.jp/	eRepository	H19. 2. 20
30	大阪教育大学	大阪教育大学リポジトリ	http://ir.lib.osaka-kyoiku.ac.jp:8080/dspace/	DSpace	H19. 2. 28
31	兵庫教育大学	兵庫教育大学学術情報リポジトリ (仮称)	未定	DSpace1.3.2	H20. 3. 1
32	神戸大学	神戸大学学術成果リポジトリ K e r n e l	http://www.lib.kobe-u.ac.jp/kernel/	Infolib-DBR	H18. 10. 2
33	奈良教育大学	奈良教育大学学術リポジトリ Nara University of Education / Academic Repository	http://dspace.nara-edu.ac.jp:8080/dspace/	DSpace1.4	H18. 2. 20
	奈良女子大学	奈良女子大学学術情報リポジトリ (仮称)		DSpace1.3.2	H19. 3. 31
35	島根大学	島根大学学術情報リポジトリ (略称：SWAN) Shimane University Web Archives of Knowledge		eRepository	H19.4.2
36	岡山大学	岡山大学学術成果リポジトリ (世界向け) eScholarship@OUDIR (地域・国内向け) ePrints@OUDIR	http://escholarship.lib.okayama-u.ac.jp http://eprints.lib.okayama-u.ac.jp	Digital Commons ePrints	H18. 4. 24
37	広島大学	広島大学学術情報リポジトリ Hiroshima University Institutional Repository: HIR	http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/portal/	eRepository	H18. 10. 6
38	山口大学	山口大学学術機関リポジトリ (YUNOCA)	http://petit.lib.yamaguchi-u.ac.jp/	Infolib-DBR	H18. 4. 3
39	高知大学	高知大学学術情報リポジトリ	未定	DSpace	H19. 12

No.	大学名	機関リポジトリ名称	URL	使用ソフト	公開日*
40	九州大学	九州大学学術情報リポジトリ (QIR)	https://qir.kyushu-u.ac.jp	DSpace1.3.2	H18. 4. 14
41	佐賀大学	佐賀大学機関リポジトリ (仮称)	http://portal.dl.saga-u.ac.jp/	NALIS-R	H18. 12. 1
42	長崎大学	長崎大学学術研究成果リポジトリ	http://naosite.lb.nagasaki-u.ac.jp/dspace/	DSpace1.3.2	H18. 4. 28
43	熊本大学	熊本大学学術リポジトリ	http://reposit.lib.kumamoto-u.ac.jp	NALIS-R	H18. 3. 31
44	大分大学	大分大学学術情報リポジトリ	http://ir.lib.oita-u.ac.jp/dspace/	DSpace1.4.1	H19. 4. 1
45	鹿児島大学	鹿児島大学リポジトリ	http://ado.lib.kagoshima-u.ac.jp/	NALIS-R	H18. 12. 21
46	琉球大学	琉球大学学術リポジトリ	http://ir.lib.u-ryukyu.ac.jp/	NALIS-R	H19. 3. 1
47	北陸先端科学技術大学院大学	JAIST 学術機関リポジトリ (仮称)	https://dspace.jaist.ac.jp/dspace/	DSpace1.3.2	H19. 4. 1
48	慶應義塾大学	慶應義塾大学学術情報アーカイブ / ジャーナル系 : Keio Academic Resource Archive / J 慶應義塾大学学術情報アーカイブ / アーカイブ系 : Keio Academic Resource Archive / A	http://koara.lib.keio.ac.jp/ http://koara_J.lib.keio.ac.jp/ http://koara_A.lib.keio.ac.jp/	XooNIps	H18. 11. 27
49	東洋大学	東洋大学空間リポジトリ		GlobalBase	H19. 10
50	法政大学	法政大学学術機関リポジトリ	未定	DSpace	H19. 3
51	早稲田大学	早稲田大学リポジトリ DSpace@Waseda University	http://dspace.wul.waseda.ac.jp/dspace/	DSpace	H17. 4. 19
52	関東学院大学	関東学院大学機関リポジトリ	http://opac.kanto-gakuin.ac.jp http://library.kanto-gakuin.ac.jp	iLisSurf e-Lib	H17. 3. 1
53	同志社大学	同志社大学学術リポジトリ	http://elib.doshisha.ac.jp/	iLisSurf e-Lib	H19. 2. 26
54	関西大学	KUリポジトリ (仮称)	未定	DSpace	H19. 3. 31
55	関西学院大学	関西学院大学学術成果発信システム	未定	DSpace	H19. 4. 1
56	高知工科大学	高知工科大学学術情報リポジトリ	未定	DSpace1.4.1	H19. 10. 1

No.	大学名	機関リポジトリ名称	URL	使用ソフト	公開日*
57	立命館アジア太平洋大学	立命館アジア太平洋大学機関リポジトリ	http://dspace.apu.ac.jp/dspace/index.jsp	DSpace	H18. 11. 24

*公開日は正式公開日。正式公開をしていない場合は試験公開日。

1-2. コンテンツ構築状況

1-2-1. コンテンツ作成件数（資料種別ごと）

年度	学術雑誌論文	学位論文	紀要論文	会議発表論文	会議発表資料	図書	テクニカルレポート	研究報告書	一般雑誌記事	プレプリント	教材	データ	ソフトウェア	その他	合計
H18	12,592	4,469	98,356	761	240	673	251	3,355	1,546	274	476	766	0	89,121	212,880
H19	26,183	11,752	47,904	1,647	494	340	387	7,037	1,333	1,065	710	60,347	5	87,739	246,943
合計	38,775	16,221	146,260	2,408	734	1,013	638	10,392	2,879	1,339	1,186	61,113	5	176,860	459,823

1-2-2. 平成18年度コンテンツ作成件数内訳（詳細）

学術雑誌論文	12,592
学位論文	4,469
紀要論文	98,356
会議発表論文	761
会議発表資料	240
図書	673
テクニカルレポート	251
研究報告書	3,355
一般雑誌記事	1,546
プレプリント	274
教材	476
データ	766
ソフトウェア	0
その他	11,449
(以下は各大学独自のコンテンツ)	
シラバス	3
大学トピック	24
学位論文要旨	15,566
科研費成果報告書	44
公開授業資料	177
博士論文審査要旨	370
研究成果報告	157
ディスカッションペーパー	525
貴重書	31,667
特殊コレクション(電子図書館)	200
貴重書(教科書等教育資料)	1,430
学内刊行物	300
教育実践情報	140

舞踊教育学の創作舞踊映像コンテンツ	400
舞踊教育学の創作舞踊静止画コンテンツ	6,000
AnnualReport:個人別教育研究報告	230
広報資料	97
科学研究費報告書前書き目次等	800
ウェブ情報資源	1,937
動画(図書館利用案内)	1
単行書の章	1
学術情報研究センター	1
公開講座資料	1
コレクション類	2,200
旧植民地資料	1,800
楽譜	150
COE 研究成果物	10
COE 報告書論文	76
E-BOOK(貴重書)	128
写真	1,400
講義ビデオ	6
メディアセンターニュース	60
貴重書解説 FLASH コンテンツ	4
東京都福祉施設空間ベース	6,000
東洋大学キャンパス空間ベース	60
中世墓資料集成空間ベース	150
郷土人形空間ベース	2,000

北東アジア官印空間ベース	430
世界文化遺産空間ベース	15
上海学術空間ベース	12
議事録	90
大隈文書	3,000
博物館所蔵 3D 映像	10
計	212,880

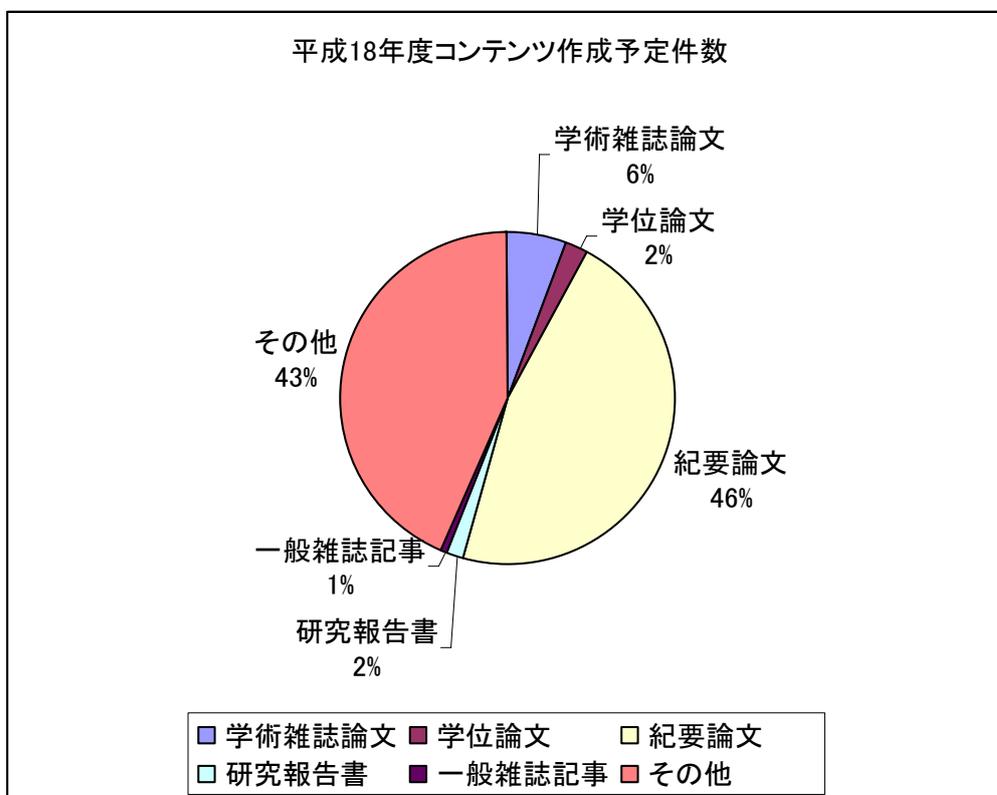
1-2-3. 平成19年コンテンツ作成件数（詳細）

学術雑誌論文	26,183
学位論文	11,752
紀要論文	47,904
会議発表論文	1,647
会議発表資料	494
図書	340
テクニカルレポート	387
研究報告書	7,037
一般雑誌記事	1,333
プレプリント	1,065
教材	710
データ	60,347
ソフトウェア	5
その他	6,553
(以下は各大学独自のコンテンツ)	
シラバス	1
大学トピック	39
学位論文要旨	29,370
貴重コレクション	500
議事収録ビデオ	50
科研費成果報告書	209
公開授業資料	85
授業実践収録ビデオ	30
博士論文審査要旨	400
研究成果報告	100
ディスカッションペーパー	100
ワーキングペーパー	200
フィールドワーク	100
建築図面	180
貴重書	12,423

議事収録ビデオ	20
特殊コレクション(電子図書館 Dilins)	40
貴重書(教科書等教育資料)	400
貴重書(双六)	112
学内刊行物	30
教育実践情報	10
先駆的な女性科学者資料	100
ライフワールドウォッチセンター公開講座教材	30
AnnualReport: 個人別教育研究報告	230
広報資料	65
科学研究費報告書前書き目次等	50
ウェブ情報資源	500
動画(図書館利用案内)	6
官報	10
修士論文	10
掛図	20
特殊コレクション(大型コレクション)	6
コレクション類	1,000
旧植民地資料	1,500
古文書(佐野家文書)	25
図録	10
沖縄関係古典資料	150
COE 研究成果物	50
リサーチレポート	453
東京都福祉施設空間ベース	6,000

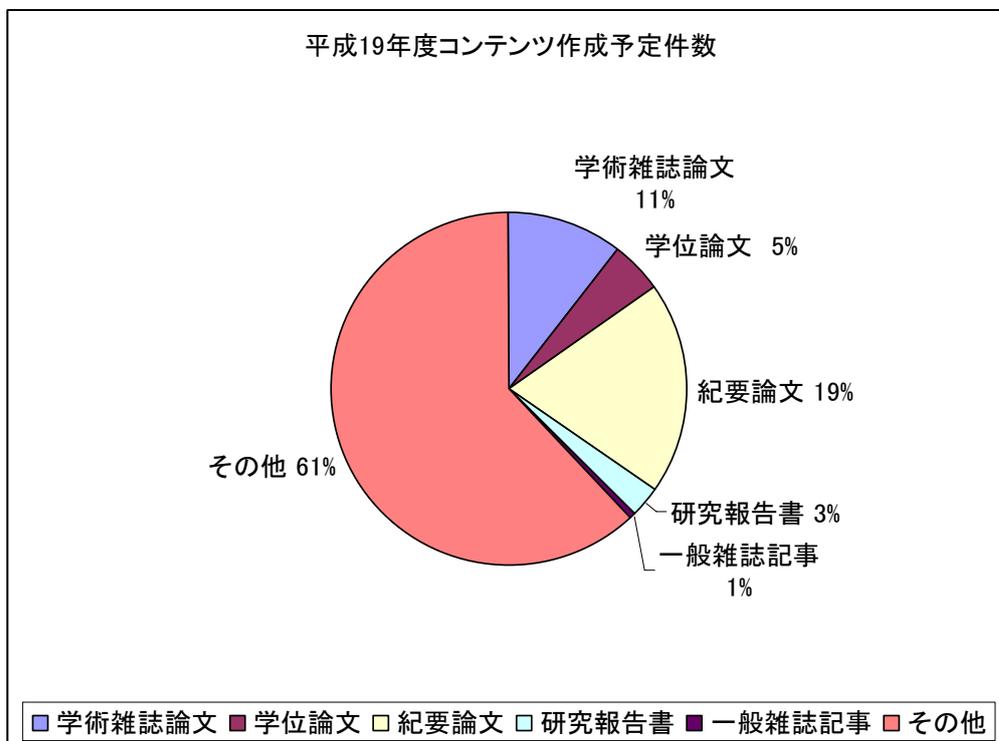
東洋大学キャンパス空間ベース	360
中世墓資料集成空間ベース	300
郷土人形空間ベース	13,000
北東アジア官印空間ベース	430
世界文化遺産空間ベース	150
井上円了世界見聞録	60
北東アジア発掘遺跡空間ベース	400
上海学術空間ベース	40
懸賞論文	30
大隈文書	11,000
学内出版物	100
博物館所蔵 3D 映像	90
学術研究高度化推進事業成果報告書	2
学術高度化推進事業年次報告書	10
特殊コレクション	100
博士論文要旨等	500
計	246,943

1-3-1. コンテンツ作成数の概要（平成18年度）



	学術雑誌論文	学位論文	紀要論文	研究報告書	一般雑誌記事	その他	合計
件数	12,592	4,469	98,356	3,355	1,546	92,562	212,880
割合	6%	2%	46%	2%	1%	43%	100%

1-3-2. コンテンツ作成数の概要（平成19年度）



	学術雑誌論文	学位論文	紀要論文	研究報告書	一般雑誌記事	その他	合計
合計	26,183	11,752	47,904	7,037	1,333	152,734	246,943
割合	11%	5%	19%	3%	1%	61%	100%

2. 領域2：各プロジェクトについて

2-1. 各プロジェクト概要

(1)プロジェクト名 (日本語)	リンク・リゾルバを通じた機関資源へのアクセス	
(2)プロジェクト名 (英語)	Access path to Institutional Resources via link resolvers	
(3)英文略称	AIRway	
(4)プロジェクトホームページURL	http://airway.lib.hokudai.ac.jp/	
(5)担当大学	大学名	主な担当内容
主担当大学	北海道大学	
連携大学	千葉大学	初期データ提供, ベンダーとの調整, 国際連携
連携大学	筑波大学	初期データ提供, ベンダーとの調整
連携大学	名古屋大学	初期データ提供, ベンダーとの調整
連携大学	九州大学	初期データ提供, ベンダーとの調整

(6) プロジェクト全体の概要

AIRway (Access path to Institution Resources via link resolver) は、リンクリゾルバによる、機関リポジトリなどに収容されたオープンアクセス文献へのナビゲーションを実現することを目的とした研究・開発プロジェクトである。AIRway はまた、その性質上、リンクリゾルバに限らず、OpenURL を通じたオープンアクセス文献の入手に広く応用可能となっている。

リンクリゾルバ AIRway サーバとのシステム間連携を行うことにより、電子ジャーナル購読ライセンスを持たない利用者を文献本体と導くことができ、文献ナビゲーションの機能を向上することができる。

機関リポジトリを運営する大学・研究機関は、AIRway サーバへ OAI-PMH によってメタデータ提供を行うことにより、Google 等のインターネット検索エンジンや OAIster 等の OAI-PMH 対応サービスプロバイダーに加え、リンクリゾルバ利用者を迎え入れることができる。本プロジェクトは、これにより、機関リポジトリに収載された文献の可視性をより向上することを目的としたものである。

(1)プロジェクト名 (日本語)	機関リポジトリ・コミュニティの活性化	
(2)プロジェクト名 (英語)	Digital Repository Federation	
(3)英文略称	DRF	
(4)プロジェクトホームページURL	http://drf.lib.hokudai.ac.jp	
(5)担当大学	大学名	主な担当内容
主担当大学	北海道大学	ウェブサイト構築, メーリングリスト運用
連携大学	千葉大学	ワークショップ開催
連携大学	金沢大学	連絡・調整等, 事務総括
連携大学		
連携大学		

(6) プロジェクト全体の概要

機関リポジトリ構築をすすめる大学が相互に情報を交換・共有し、各大学でのリポジトリの設置・運営に貢献しあうとともに、プロジェクト型のコンソーシアム活動を通じて、リポジトリの継続のための相互協力活動やゆるい連携組織のあり方を模索することを目指す。

初年時の活動は以下の通りである。

1. ワークショップの実施

第1回 平成18年11月17日「機関リポジトリの構築に向けて」(千葉大学)

第2回 平成19年2月8～9日「機関リポジトリをデザインする」(早稲田大学)

2. ウェブサイトの開設

機関リポジトリのコンテンツ構築に関する情報、著作権に関する情報、ソフトウェア情報などを蓄積する

3. メーリングリストの開設

オープンアクセス思潮、機関リポジトリの広報、コンテンツ収集、権利処理、事業化、システム構築、国内外の動向・ニュースなど、機関リポジトリの構築に関するあらゆる話題について、自由に情報交換・意見交換を行う

(1)プロジェクト名 (日本語)	主題ナビゲーション	
(2)プロジェクト名 (英語)		
(3)英文略称		
(4)プロジェクトホームページURL	http://metron.math.sci.hokudai.ac.jp/search-new/navi/huscap/TagCloud/	
(5)担当大学	大学名	主な担当内容
主担当大学	北海道大学	
連携大学		

(6) プロジェクト全体の概要

利用者が機関リポジトリに収録されている文献へたどり着くには、たいていの場合リポジトリ本体のものであれ、Google 等の検索エンジンであれ、キーワード検索を経由するが、キーワードを利用者が入力せずに、かつキーワードを意識した方法で文献へ到達するための手段を構築・提示することで機関リポジトリの文献をより身近なものに感じてもらえるようにする。実現方法としては、OAI プロトコルから取得したメタデータを利用してキーワードを抽出・解析し、機関リポジトリ内の論文間の関連性を表現する。抽出したキーワードは出現頻度によって文字表示の大小を変更させる等の視覚的な効果を用いて表現し、利用者より直感的に論文へとたどりつけるようなナビゲーションを行えるようにする。また、年代別・分類番号等でのグループ化や、それぞれのグループを掛け合わせて表示することで、多様なニーズに応えることができる。メタデータ取得には JuNii 及び JuNii2 形式を使用し、国内のリポジトリであれば容易に応用・実装できる。また、OAI プロトコルをもちいてハーベストしたデータを用いるシステムとすることで、複数リポジトリ対象としたキーワードの抽出・解析を行うことができる。本プロジェクトは、これらにより機関リポジトリのサービス価値の向上を図るものである。

(1)プロジェクト名 (日本語)	教育成果に重点をおいたコンテンツ作成	
(2)プロジェクト名 (英語)		
(3)英文略称		
(4)プロジェクトホームページ URL		
(5)担当大学	大学名	主な担当内容
主担当大学	東北大学	
連携大学		

(6) プロジェクト全体の概要

本学の、優れた教育機関としての側面に注目し、教育実績を重視したコンテンツでリポジトリの構築を開始する。平成 17 年度までに本格的な取組み実績は非常に少なく「リポジトリ」というシステムの新たな可能性を探る試みとする。(以上「委託事業提案書」より抜粋)

具体的には学位論文を主たる教育実績として収集するという構想であるが、平成 18 年度に設置された教員による検討組織「学術情報戦略会議」においても、以下の理由からこの取組みを最優先で進めることが望ましいとの結論を得た。

- ・ 学術研究において貴重な情報が含まれている場合が多い
- ・ 保管状況が様々で利用条件も一律でない
- ・ 東北大学としてこれまでの実績を概観できるような資料もない

当初、学術雑誌掲載論文中心に推進されてきたリポジトリだが、今後の方向性に関してより幅広い選択肢を提供できるような試みとしたい。システムについても公開希望日の設定など登録しやすくカスタマイズした部分があり、他機関での検討の一助になると思われる。

(1)プロジェクト名 (日本語)	国内学協会等の著作権ポリシー共有・公開プロジェクト	
(2)プロジェクト名 (英語)	Society Copyright Policies in Japan	
(3)英文略称	SCPJ	
(4)プロジェクトホームページURL	http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/scpj/	
(5)担当大学	大学名	主な担当内容
主担当大学	筑波大学	データベースの構築に関すること
連携大学	千葉大学	啓発・プロモーション活動に関すること
連携大学	神戸大学	アンケート調査に関すること
連携大学		
連携大学		

(6) プロジェクト全体の概要

国内学協会等の出版物で発表された学術論文を機関リポジトリに掲載する際に必要な著作権処理に関して、学協会の機関リポジトリに対する論文掲載許諾状況について調査を行い、データベースを作成して公開する。

学協会の許諾状況については、国立大学図書館協会デジタルコンテンツプロジェクトと連携を取り、同プロジェクトが平成17年度に実施した「著作権の取扱いに関するアンケート」の調査結果をデータベース化して公開すると共に、追加調査を行ってデータベースに反映させる。

各大学等が学協会等に対して著作権ポリシー調査を行うための共通アンケート様式を作成し、提供する。各大学で得た著作権ポリシー情報を収集・集約し、データベースに登録する。

また、JSTや学術著作権協会等と著作権許諾について交渉を行い、公開・委託されている著作物の機関リポジトリへの協力を依頼すると共に、オープンアクセスへの理解を促し、学術機関リポジトリへのコンテンツ掲載許諾を得るため、国内学協会等に対するシンポジウムを開催する。

(1)プロジェクト名 (日本語)	わが国における学術情報基盤の振興のための国際的協力の調整	
(2)プロジェクト名 (英語)		
(3)英文略称		
(4)プロジェクトホームページURL		
(5)担当大学	大学名	主な担当内容
主担当大学	千葉大学	国際シンポジウム開催にかかわる企画業務
連携大学		

(6) プロジェクト全体の概要

高等教育・研究・政府機関や学術団体における情報インフラストラクチャへの取り組みを背景に、学術コミュニケーションの将来展望を共有するために、国内外から有識者を招き、以下の問題を議論する国際シンポジウムの開催に寄与した。

1) 機関リポジトリを基盤とし、e-Scienceなどの形で展開するデジタル環境下での科学研究の振興と情報の共有化、2) 科学・学術研究の成果普及に関し、従来の出版方法を越えた新しい可能性や著作権にかかる問題、3) それらの展開が高等教育機関のあり方に及ぼす影響。

D. グリンスティーン氏の基調講演に続き、セッション1では、進化する研究インフラとしての機関リポジトリについて、セッション2は、学術・研究成果普及の将来について、セッション3では、高等教育のためのデジタル資源の課題についての講演が行われた。シンポジウム受付数：290名。各参加者数は、基調講演：200名、セッション1：200名、セッション2：150名、セッション3：120名であった。

(1)プロジェクト名 (日本語)	研究者—情報の共進化型コミュニティ創出支援	
(2)プロジェクト名 (英語)	Co-evolutional Academic Research and Education.	
(3)英文略称	CARE	
(4)プロジェクトホームページURL		
(5)担当大学	大学名	主な担当内容
主担当大学	千葉大学	コンテンツの共有促進, 相互情報還元支援
連携大学	九州大学	コンテンツのバージョン管理, 関連付けによる研究プロセス支援

(6) プロジェクト全体の概要

機関リポジトリをコアとして有機的に結合される研究者コミュニティ創発の支援を行うことを本プロジェクトの目的とする。システム構築における基本の方針は、既存のデータベースを統合利用して目的や用途に応じた“繋がり”のボトムアップな組織化である。システムは「情報を管理する」という側面を最小限にとどめ、研究者（参加者）が機関リポジトリ、研究者データベースに情報を提供することによって自らの必要とする「情報が還元される」機能を充実させる。

ボトムアップな組織化において、1) 機関リポジトリに研究教育成果物を投入する呼び水を作り、情報還元力のあるコミュニティを萌芽させること、また、2) 還元に必要な機能を充実させることを両輪として進めている。1) に関しては、研究費獲得や研究推進支援に向けて、千葉大学研究者の過去の科研獲得情報を利用した「学内外の潜在的コミュニティを可視化」して提供するシステムのプロトタイプ構築、また、論文情報共有型のConnoteaの機能分析を行い、独自のソーシャルネットワーキングサービスの仕様策定の段階にある。2) については九州大学を中心に教員研究者の興味分析調査に基づいて、論文バージョン管理や資料の関連付けシステムのプロトタイプを構築している。

(1)プロジェクト名 (日本語)	機関リポジトリの評価システム	
(2)プロジェクト名 (英語)	Evaluation of Institutional Repositories	
(3)英文略称	なし	
(4)プロジェクトホームページ URL	なし	
(5)担当大学	大学名	主な担当内容
主担当大学	千葉大学	機関リポジトリ評価のための指針の策定
連携大学	三重大学	機関リポジトリ評価のための指針の策定
連携大学		
連携大学		
連携大学		

(6) プロジェクト全体の概要

各大学で構築が進められている機関リポジトリを相互評価するための枠組みを検討し、各図書館が自己評価できるような指標を策定した。この指標の策定においては、1) リポジトリ構築／運用に係る整備状況、2) コンテンツ収集／利用の促進に関する活動、3) インプット、4) アウトプットといった観点から、リポジトリ構築、利用にかかる諸活動を総合的に評価するものとなるように配慮した。1) から3) に係る評価項目については、今年度の CSI 事業（領域1）の評価のための指標としてすでに使われているところである。

アウトプット（利用統計）については、アクセスを解析するためのソフトがフリーウェアとして利用可能であるのでこれを最大限活用することを考慮したが、上記4) で提案した一部の項目についてはこのソフトウェアでは処理できないため、別途モジュール（e-repository および DSpace 用）を開発した。このモジュールは担当館での検証ののち、CSI 参加館に公開する予定である。

(1)プロジェクト名 (日本語)	リポジトリ登録・管理システムの開発	
(2)プロジェクト名 (英語)		
(3)英文略称		
(4)プロジェクトホームページURL		
(5)担当大学	大学名	主な担当内容
主担当大学	東京大学	
連携大学		

(6) プロジェクト全体の概要

東京大学では、機関リポジトリのソフトウェアとしてDSpace日本語版を導入して「東京大学学術機関リポジトリ (UT Repository) の構築とサービスを行っている。

DSpaceの登録画面から研究者本人が登録作業を行うことは、面倒で不便な作業であり、研究者の負担となるため、現状では、基本的に情報基盤センターの担当職員が登録作業を行っている。しかし、このDSpaceには本文コンテンツの著作権許諾を管理する機能が無いため、パソコン等のローカル側で著作権許諾情報の管理を別途行う必要がある。このローカル側での別管理は、さまざまなコンテンツを登録する機関リポジトリにおいてはコンテンツの種類毎にバラバラの管理となり、今後の大量のコンテンツを扱う際のボトルネックとなるため、リポジトリへ登録するコンテンツの許諾情報を管理し、公開側のDSpaceと連携する機能を持つシステムを構築し、効率的な登録管理ができるようにするものである。

システム開発の概要は次のとおり

- ・ 著作権許諾情報を管理するデータベースの設計と実装
- ・ 著作権許諾が不十分なコンテンツの登録を防止する機能
- ・ 著作権許諾がされていないコンテンツの抽出する機能
- ・ 公開期限が設定されているコンテンツを公開日に自動登録する機能

(1)プロジェクト名 (日本語)	教育系サブジェクトリポジトリとしての展開	
(2)プロジェクト名 (英語)		
(3)英文略称	なし	
(4)プロジェクトホームページ URL	なし	
(5)担当大学	大学名	主な担当内容
主担当大学	東京学芸大学	
連携大学	国立教育系大学等	
連携大学		
連携大学		
連携大学		

(6) プロジェクト全体の概要

今後多くの機関でさまざまな情報を収集・提供する機関リポジトリが構築されると思われるが、教育系の研究者においては、その中から教育関連情報の情報を効率的に収集したいというニーズが出てくると思われる。それに応えるべく、東京学芸大学リポジトリを、教育系サブジェクトリポジトリとしても位置付け、本学の研究成果情報のみならず、教育に特化した幅広い関連機関の教育研究情報等の収集方策を検討し、実施する。そのために、教育情報の特性を捉えたメタデータの作成基準、OAI-PMHを利用した教育関係メタデータの収集方法等について、他の教育系大学と連携を図りながら検討する。また、本学教員等が手間をかけずに、業績としての教育研究成果情報を網羅的に登録する仕組みを作る一方、情報提供のためのインターフェイスを改善する。

(1)プロジェクト名 (日本語)	Tokyo Tech Research Repository(T2R2)システム開発	
(2)プロジェクト名 (英語)	Tokyo Tech Research Repository(T2R2) Project	
(3)英文略称	T2R2 Project	
(4)プロジェクトホームページURL	t2r2.star.titech.ac.jp (準備中)	
(5)担当大学	大学名	主な担当内容
主担当大学	東京工業大学	
連携大学		

(6) プロジェクト全体の概要

独自に開発を行う T2R2 システムにおいて、以下に代表される、機関リポジトリシステムに対する新たな機能の実現等を図り、他大学の参考となるモデルを構築する。

- ①全学認証・認可システム等と連携し、多彩な入力支援機能を提供することで、研究者自身による少ないコストでの入力を実現する。
- ②全学認証・認可システム等と連携し、コンテンツ入力者と論文等との関連付けだけでなく、共著者を含む学内全著者と論文等との関連付けを容易にすることで、論文等の重複管理機能を実現する。
- ③全文情報の公開が可能な論文等だけでなく、学内研究者によって執筆される全ての論文・著書のメタデータを蓄積し、かつ研究者自身による多様な利用機能を提供することで、単なる蓄積・公開用システムではない、学内研究者向けの研究成果管理システム（研究支援ツール）を実現する。
- ④上記の機能を有した上で、研究者情報システム（大学情報データベース）との連携を実現することで、大学情報データベースに必要な研究業績登録の促進効果をもたらす。
- ⑤Tokyo Tech OCW や Tokyo Tech ODM システムとのデータ連携機能により、個々のコンテンツの特性に合わせた独自の Repository 構築を図りつつ、全体として統合化された形での学内外への発信や学内外システムとのデータ連携を実現する。

(1)プロジェクト名 (日本語)	「OneWriting & MultiOutput システム」の開発	
(2)プロジェクト名 (英語)	なし	
(3)英文略称	なし	
(4)プロジェクトホームページ URL	なし	
(5)担当大学	大学名	主な担当内容
主担当大学	お茶の水女子大学	
連携大学		

(6) プロジェクト全体の概要

学内における教育・研究成果情報の「OneWriting & MultiOutput システム」を確立することで、情報の蓄積と発信に係る、教員・事務各々の時間とコストを節減する。既存の学内情報システムとの連携、融合を進めることで、これまでに各部署で蓄積してきた教育・研究情報の資産を無駄なく活用し、本学のような小規模大学における「コンテンツ蓄積と発信」の整備運用の体制モデルを提示する。

平成 18 年度は、本学既存の関連システム、データベース（教員活動評価 DB、教員総覧 DB 等）との連携、一元化を視野にいれ、各データベース、システムの詳細調査を行い、新システム構築に向けたシステム設計を行なった。

(1)プロジェクト名 (日本語)	業績 DB・IR 連携プロジェクト	
(2)プロジェクト名 (英語)	A Project on Data Sharing for Achievement DB and IR	
(3)英文略称		
(4)プロジェクトホームページ URL	http://www.lib.kanazawa-u.ac.jp/kura/achievement	
(5)担当大学	大学名	主な担当内容
主担当大学	金沢大学	プロジェクト進行調整, 基本設計
連携大学	早稲田大学	基本設計補助
連携大学	九州大学	基本設計補助
連携大学		
連携大学		

(6) プロジェクト全体の概要

機関リポジトリ (以下 IR) と業績データベース (以下 ADB) との間で, 代理登録型とユーザ支援型の 2 つのモデルに分けて開発を実施し, データ及び論文の利用を可能とした。

<モデル1> 金沢大学, 早稲田大学 (代理登録型)

教員が ADB に業績を登録・更新する際に, (1) 論文等のコンテンツを IR にアップする機能を付加する。また, (2) ADB の主要な書誌的データ (著者, 論文タイトル, 雑誌名など) を選択的に IR 側に取り込むことを可能とする。(3) ADB 側から, IR 側のコンテンツへ利用者を誘導するリンクを実装する。

ADB 登録・更新及び論文のアップロードは教員が自力行なうが, IR への登録などは図書館のマニュアル操作で実施する。ただし, (3) については来年度の実装となる。(開発のコンセプトはすでに両大学で了解済みで, 開発業者とも打合せ済みである)。

<モデル2> 九州大学 (ユーザ支援型)

ADB がすでに構築済みであるため, ADB のシステムに大幅な改造を加えることなく, IR システムとの連携を実現する方法について検討を行った。利用者には ADB の豊富な書誌情報から, ワンクリックで一次情報へナビゲートでき, また, 学内研究者に対しては, IR ヘデータ登録を促せるシステムを開発した。来年度は ADB, IR を含めた学内のデータベースの統合検索環境を構築する予定である。

(1)プロジェクト名 (日本語)	多様なメタデータの[相互]交換	
(2)プロジェクト名 (英語)	Mutual Exchange of Diverse Metadata Schemes	
(3)英文略称	MEDMS	
(4)プロジェクトホームページURL	http://info.nul.nagoya-u.ac.jp/pubwiki/index.php?MEDMS	
(5)担当大学	大学名	主な担当内容
主担当大学	名古屋大学	
連携大学		

(6) プロジェクト全体の概要

本プロジェクトは、種々の情報サービス上に分散した多様なデータを統一的に扱う方法を開発するものである。具体的には、それぞれのサービス上のメタデータをそれぞれの特性に応じた方法で適切な形式に変換し、それを標準的な通信手順で公開できるようにする。これを適用することによって、多数の異なった情報サービスから統一的な方法でメタデータを交換できることを保証することができるようになり、情報サービス間の横断検索などといった課題にも容易に対応ができるようになる。対応するデータ形式は、第1期としてDublin Core、国立情報学研究所のjunii/junii2、学位論文メタデータの標準であるETD-MS、オープンコースウェアのためのメタデータ形式であるLOMなどを想定している。また、第2期として簡易なルールを記述することで任意のメタデータを別の形式のメタデータに変換するシステムを実装する。

プロジェクトの成果は他の組織が容易に利用できる形態で公開される。これを利用することで、今まで限られた検索手段しか持たなかったようなレガシーな情報資源が、より活発に流通するようになる見込みである。

(1)プロジェクト名 (日本語)	システム間連結のための著者名(典拠)ディレクトリ開発	
(2)プロジェクト名 (英語)	Name Authority Resolution System	
(3)英文略称	NARS	
(4)プロジェクトホームページURL	http://info.nul.nagoya-u.ac.jp/pubwiki/index.php?ANDISC	
(5)担当大学	大学名	主な担当内容
主担当大学	名古屋大学	
連携大学		

(6) プロジェクト全体の概要

このプロジェクトは、システムごとの特性によって起こる著者名表記のゆらぎから起こる問題を解消しようとするものである。今回計画するものは、ある単一のシステム内で起こる著者名表記のゆらぎと、複数のシステム間での表記規則の違いという二つの側面を同時に解消することを目指している。

具体的な方法としては、著者名をパラメータに含んだリクエストを専用のWEB サービスに対して発行すると、そこで著者名の同定と適切なパラメータに整形されたリンク先が提供されるものを想定している。この仕組みによって、従来のシステムについての修正コストを最小限に保ち、システム内での著者別アイテム一覧を正確に表示することや、著者名を介したシステム間の相互リンクが可能になる。

このプロジェクトの成果は、他の機関が容易に利用できる形態で公開される予定である。また、システム的设计にあたっては、ISO 等の国際標準に準拠することを目指す。

(1)プロジェクト名 (日本語)	機関リポジトリを中心とした学習・教育，研究環境向上のための統合的情報検索システムの開発	
(2)プロジェクト名 (英語)	Integrated Searching System of Environment for Study, Education and Learning.	
(3)英文略称	Isee (あい・シー)	
(4)プロジェクトホームページURL	http://miuse.mie-u.ac.jp/	
(5)担当大学	大学名	主な担当内容
主担当大学	三重大学	<ul style="list-style-type: none"> ・ 機関リポジトリを中心とした学内外学術情報の統合検索システム開発 ・ 学習・教育活動における機関リポジトリ利用の可能性評価および機能要件の検討
連携大学	なし	

(6) プロジェクト全体の概要

本プロジェクトの目的は，統合検索機能の実現をもとに，学習・教育，研究の文脈における機関リポジトリの活用可能性を検証するとともに，今後において機関リポジトリを有効活用するための機能およびコンテンツが備えるべき要件を明らかにすることにある。

具体的には，まず，学内外で蓄積・流通しているさまざまな学術情報資源を統合的に検索できる「統合検索システム」を開発し，機関リポジトリ，各種データベース，検索エンジン等の一括検索機能を実現し，学術情報の発見から，入手，利用に至る一連の経路を支援する学習・教育，研究環境を構築する。このシステムでは，それぞれの利用者が検索対象および画面構成をカスタマイズできる専用のインターフェイスと，e-learningシステムMoodleやWebシラバス等の学内の学習教育関係サイト上に検索窓を置き，学習・教育・研究の具体的場面における活用を資する。次いで，アクセスログの解析や，フォーカスグループ，アンケート等による利用者（学生・教員）の意見・態度の調査分析をもとに，学習教育の文脈における機関リポジトリや統合検索機能の活用可能性の検証とその機能要件の明確化を図る。

(1)プロジェクト名 (日本語)	数学文献アーカイブの構築と公開	
(2)プロジェクト名 (英語)	なし	
(3)英文略称	なし	
(4)プロジェクトホームページ URL	なし	
(5)担当大学	大学名	主な担当内容
主担当大学	京都大学	『数理解析研究所講究録』の IR 登録
連携大学	北海道大学	projecteuclid.org 等からのハーベスティング
連携大学	東京大学	数理科学研究科発行の欧文誌の IR 登録
連携大学		
連携大学		

(6) プロジェクト全体の概要

北海道大学大学院理学研究院数学部門，東京大学，京都大学の三者が機関連携して，国内数学分野のコンテンツ形成における方向性を確立する。

北大は，SPARC/Japan 選定誌がプラットフォームとして使用する projecteuclid.org，プレプリントサーバ arxiv.org 等から OAI-PMH でのハーベスティングを行い，メタデータ集約によるコンテンツ集約を図る。

東大は，数理科学研究科（東大数理）の英文ジャーナル「Journal of Mathematical Sciences, The University of Tokyo (JMS)」について，東京大学学術機関リポジトリによる公開のための作成協力を行い，東大数理との連携を図る。JMS は数学分野における数少ない日本発の国際誌であり，機関リポジトリを通して公開されることは，国内数学分野のコンテンツ形成に大いに意義がある。

京大は，1967 年より現在まで発行され続けている『数理解析研究所講究録』を IR へ登録する。この『講究録』は，全国共同利用施設である数理解析研究所（京大数研）の共同利用事業として開催された研究集会の記録であり，40 年あまりの日本の数学研究の進展を概観できる資料として貴重なものである。

(1)プロジェクト名 (日本語)	登録負荷軽減のための連携型機関リポジトリシステムの開発	
(2)プロジェクト名 (英語)	Development of a cooperative institutional repository for load reduction on registering information	
(3)英文略称		
(4)プロジェクトホームページURL	http://ir.library.osaka-u.ac.jp/	
(5)担当大学	大学名	主な担当内容
主担当大学	大阪大学	
連携大学		

(6) プロジェクト全体の概要

学内における既存の学術情報にかかわるシステムとの連携機能を構築することで、研究者自身による機関リポジトリへの登録の容易性を確保するとともに、リポジトリへのデータ登録を支援する図書館職員にとって教員から提供されたデータの登録を簡便にする方法を研究開発し、実運用する。具体的には、学内統一認証基盤システムとの連携により、他システムにログインした際に機関リポジトリもそのまま利用できる仕組み(シングルサインオン機能)を実現し、機関リポジトリの利用促進を目指す。また、登録者・閲覧者の負荷を軽減するために、図書館業務システムと連携することによる書誌情報の登録支援や、教員基礎データ収集システムをはじめとする学内の他システムとの連携による登録の効率化および著作権処理の効率化に対して検討を行い、統合システム実現に向けての課題抽出を行う。

これまで機関リポジトリシステムにおいてデータ登録者の負荷軽減のためのシステム構築を行っている例は少なく、シングルサインオン機能と機関リポジトリを連携させることで登録推進の効果が得られれば、他機関においても機関リポジトリにシングルサインオン機構を導入する試みが活発化し、機関リポジトリシステムが積極的に利用される環境が実現できる。

(1)プロジェクト名 (日本語)	平和学リポジトリの構築	
(2)プロジェクト名 (英語)	Peace Studies Repositories Project	
(3)英文略称	PAIR	
(4)プロジェクトホームページURL	http://www.lib.hiroshima-u.ac.jp/pair/pair.html	
(5)担当大学	大学名	主な担当内容
主担当大学	広島大学	
連携大学		

(6) プロジェクト全体の概要

本プロジェクトは、本学の理念である「平和を希求する精神」に基づき、平和学のサブジェクトリポジトリとして特色ある機関リポジトリの構築を目指すために以下の事業を行うものである。

1. 学内の関連機関が発行する平和学関連資料を収集するだけにとどまらず、新たな平和学関連資料の生産とその流通に寄与するため、軍縮問題において世界的な権威を持つストックホルム国際平和研究所(SIPRI)が発行する年鑑(SIPRI Yearbook)を学内で翻訳・出版し、リポジトリで公開する。加えて、平和学の学習・研究に資するため、上記研究所作成の「国際関係及び安全保障の傾向に関するファクトデータベース(FIRST)」日本語版を作成し、平和学リポジトリや他の平和学情報資源と統合した平和学ポータルサイトの構築を行う。

2. 広島県内の大学図書館で「広島県内大学図書館共同リポジトリ構築実験プロジェクト」

(Hiroshima Associated Repository Project: HARP) を立ち上げて構築実験を行い、より多くの機関のリポジトリへの参加とコンテンツの拡充を目指すとともに、県内大学図書館からの平和学関連資料を収集する。

3. 1と2を融合することで、広島県内からの平和学コンテンツを拡充し、平和学に関する学術論文を網羅的に発信することにより、国内外の平和学の研究発展に資することを目指す。また、共同リポジトリを構築するためのモデルを提供することができると考える。

(1)プロジェクト名 (日本語)	機関内学術情報資源の統合検索	
(2)プロジェクト名 (英語)	Federated Search for Institutional Academic Resources	
(3)英文略称	FS Project	
(4)プロジェクトホームページURL		
(5)担当大学	大学名	主な担当内容
主担当大学	九州大学	
連携大学		

(6) プロジェクト全体の概要

大学が有する学術情報は論文などの文書データだけでなく多岐に渡り、目的に応じて複数のデータベースが学内に点在する。一方、学術情報を利用したいユーザはそれぞれのデータベースの所在を個別に探す必要がある。そこで、これらの情報を統一的なインターフェースで利用可能にすれば、利便性が向上し、学術情報の発信能力は飛躍的に高まる。

機関リポジトリ以外のデータベースにはメタデータがあるとは限らず、メタデータ付与が困難なデータベースも存在するため、単純に一つのデータベースとしてまとめることはできない。そこで、本プロジェクトでは、制約の少ないテキスト検索技術を用いて様々な種類の学術情報をゆるやかに結合し、統合的な利用を可能にするモデルを提案する。テキスト検索を用いれば、テキストデータをメタデータのように扱い、全文検索へも自然に拡張できる。また、論文に対するコメント等の利用者からのフィードバックもメタデータとして検索できる。

世界的に見ると、機関リポジトリを単なる発表済論文のデータベースと捉えるのではなく、教育用資料やデータまでを含めた巨大な学術資源データベースと捉える動きもある。本プロジェクトは、このような新たな機関リポジトリの日本版モデルを提案しようとするものである。また、従来厳密なメタデータの運用をその基幹に据えていた機関リポジトリに対し、データ交換ではなく検索が目的だけの場合は、本プロジェクトが考える「ゆるやかな統一」がより適していることを示すことも大きな目的のひとつである。

(1)プロジェクト名 (日本語)	XooNips Library モジュールの開発	
(2)プロジェクト名 (英語)	Development of a XooNips Library module	
(3)英文略称		
(4)プロジェクトホームページ URL	http://sourceforge.jp/projects/xoonips-library/ (開発サイト)	
(5)担当大学	大学名	主な担当内容
主担当大学	慶應義塾大学	
連携大学		

(6) プロジェクト全体の概要

慶應義塾大学で開発・運営している機関リポジトリ KOARA (KeiO Academic Resource Archive) で利用する XooNips アイテムタイプ、XooNips Library モジュールの開発を行う。XooNips Library モジュールでは、研究者向けとして開発されている XooNips を図書館にとってより利用しやすいよう、メタデータスキーマには MODS に準拠したものを実装している。また、OAI-PMH 対応として、OAI_DC だけでなく、JuNii2 にも対応する。開発自体は慶應義塾大学だけではなく、XooNips 本体の開発元である理研（理化学研究所）の一部サポートを受けて行う。この協力体制により、図書館と研究所で必要とする機能の相違を把握しつつ、共通の問題点の速やかな解決を目指す。慶應義塾大学のメリットとして、機関リポジトリにデータを提供する研究者側の視点で開発されているシステムを元にするここと、より研究者寄りの視点に近づくことができるという点があげられる。

このモジュールの評価については、他機関（埼玉大学、札幌医科大学、旭川医科大学、農林水産研究情報センター）と連携して行う。

具体的には、①XooNips Library モジュールを実装してもらい、その評価をフィードバックしてもらおう。②外部システムであるリンクリゾルバ (metalib, SFX) との連携に対する検証について情報共有を行う。といったものとなる。

他システムの組込み実装評価のため、Google アプライアンス (Google Mini) を検索モジュールとして実装する実験も併せて行う。

(1)プロジェクト名 (日本語)	電子出版システム（編集査読システム）の開発	
(2)プロジェクト名 (英語)	Development of a Journal Editing and Publishing System	
(3)英文略称	ePubs	
(4)プロジェクトホームページURL	http://www.wul.waseda.ac.jp/ir/epubs/ （公開に向けて準備中）	
(5)担当大学	大学名	主な担当内容
主担当大学	早稲田大学	企画立案，調査（国内外の事例：OJS等），開発，テスト
連携大学	広島大学	調査（学内刊行物の実態調査および海外事例：DpubS等），テスト
連携大学	長崎大学	調査（学内刊行物の実態調査および海外事例），テスト

(6) プロジェクト全体の概要

1. 概要

紀要等，学内刊行物の各論文をリポジトリへ継続的かつ簡便に登録可能とすることを目的に，無償で利用できる日本語による出版査読システムがいまだ存在しないという背景を受けて，それら学内刊行物の電子出版を実現すべく電子出版（編集査読を含む）システムを開発する。

2. 計画概要

上記概要にもとづき，電子出版システムを開発するため，以下の事項について作業を行う。

- (1) 既存の電子出版システムの調査を行う。
- (2) 調査に従い，学内の紀要類出版団体と協力しながら仕様を策定する。
例として次の項目を検討する。
 - ・ 1サーバで複数団体の学術雑誌を処理できるようにする。
 - ・ 執筆者からの投稿を受ける画面をデザインする。
- (3) 電子出版システムのプロトタイプを開発する。
- (4) プロトタイプのテストおよび評価を行い，電子出版システムを完成させる。
- (5) 無償で電子出版システムのプログラムを公開する。

2-2. プロジェクトホームページ一覧

リンクリゾルバを通じた機関資源へのアクセス (AIRway)

<http://airway.lib.hokudai.ac.jp/>

国内学協会等の著作権ポリシー共有・公開プロジェクト (SCPJ)

<http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/scpj/>

登録負荷軽減のための連携型機関リポジトリシステムの開発

<http://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

機関リポジトリコミュニティの活性化 (DRF)

<http://drf.lib.hokudai.ac.jp/>

XoonIps Library モジュールの開発

<http://sourceforge.jp/projects/xoonips-library/>

業績 DB・IR 連携プロジェクト

<http://www.lib.kanazawa-u.ac.jp/kura/achievement>

主題ナビゲーション

<http://metron.math.sci.hokudai.ac.jp/search-new/navi/huscap/TagCloud/>

電子出版システム (編集査読システム) の開発 (ePubs)

<http://www.wul.waseda.ac.jp/ir/epubs/>

多様なメタデータの [相互] 交換 (MEDMS)

<http://info.nul.nagoya-u.ac.jp/pubwiki/index.php?MEDMS>

機関リポジトリを中心とした学習・教育, 研究環境向上のための統合的情報検索システムの開発
(Isee あい・しー)

<http://miuse.mie-u.ac.jp/>

平和学リポジトリの構築 (PAIR)

<http://www.lib.hiroshima-u.ac.jp/pair/pair.html>

システム間連結のための著者名 (典拠) ディレクトリ開発 (NARS)

<http://info.nul.nagoya-u.ac.jp/pubwiki/index.php?ANDISC>

3. 公募

3-1. 応募状況

	応募数	採択数	不採択数	採択率
国立	64	47	17	73%
公立	0	0	0	---
私立	13	10	3	77%
合計	77	57	20	

次世代学術コンテンツ基盤共同構築事業中間まとめ

平成 19 年 6 月 7 日

発行：大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構
国立情報学研究所
〒101-8430 東京都千代田区一ツ橋 2 丁目 1 番 2 号